# かつお・まぐろ船 ER

アプリケーション機能要件定義書

# 水產庁



# 目次

第1	草 はじめに	. 4
第2	章 機能に関する事項	. 6
1.	入力データの分類	
2.	機能一覧	. 7
3.	各種レポート	13
第3	章 画面に関する事項	17
1.	画面一覧	17
2.	画面イメージ	23
3.	画面遷移の基本的考え方	25
4.	画面設計ポリシー	25
第4	章 帳票に関する事項	26
1.	帳票一覧	26
2.	帳票イメージ	26
3.	帳票設計ポリシー	26
第5	章 データに関する事項	27
1.	データモデル	27
2.	データ一覧	27
3.	データ定義	27
4.	コード一覧	29
5.	コード内容定義	30
第6	章 外部インタフェースに関する事項	39

# 第1章 はじめに

本書には、かつお・まぐろ船 ER アプリケーション(以下アプリ)の機能要件を記載する。

#### アプリの基本機能

アプリの主な役割は、以下の3点である。

- ・対象となるかつお・まぐろ漁業種別ごとに、対応する操業日誌様式で求められる入力項目を航海 中ユーザがアプリ上で入力できるようにする。
- ・通信可能な際に、入力されたデータを適切な形で受け手側システムに向けて送信する。
- ・現在の航海について、入力されたデータを機器の画面にオフラインで一覧表示する。

対象となるかつお・まぐろ漁業種別の操業日誌様式は以下の4つである。本要件定義書内では、それぞれの略称を使用する。また、「遠洋はえ縄(大西洋入域船)」と「遠洋はえ縄(大西洋入域以外)」を総称して「遠洋はえ縄」と呼ぶ。

様式名称							
かつお・まぐろ漁業に係る操業日誌(総トン数120	様式1:大西洋入域船用	遠洋はえ縄(大西洋入域船)					
トン以上の動力漁船により、浮きはえ縄を使用するものに限る。)	様式2:大西洋入域船以外の漁船用	遠洋はえ縄(大西洋入域船以外)					
かつお・まぐろ漁業に係る	操業日誌 (総トン数 120 トン未満の	近海はえ縄					
動力漁船により、浮きはえ							
かつお・まぐろ漁業に係る	操業日誌 (釣りによる漁業)	竿釣り					

- 1. 前述の役割を実現するため、アプリは下記の機能を有することとする。各漁業種別の操業日誌様式で求められる入力項目を、航海中ユーザがアプリ上で入力する機能
- 2. 入力したデータを、アプリを使用する機器のストレージに保存する機能
- 3. 入力したデータを、送信に適した形に成形し、機器がインターネットまたは衛星通信に接続された際に、指定された送信先に送信する機能
- 4. 2で保存したデータを航海ごとに一覧できる形で表示する機能 これらに加え、下記を考慮してアプリ設計を行うこと
- 5. 入力完了または送信完了したデータを修正するデータを入力できるようにすること
- 6. 修正データを4の一覧表示に反映すること
- 7. 4でのアプリの表示言語は日本語及び英語の二か国語対応とすること。また、1での表示言語についても日本語及び英語に対応することが望ましい。
- 8. ユーザがアプリの動作をテスト利用する機能を持つことが望ましい。テスト利用時のデータは 受信システム側で本番の操業データと混同されることのないように設計すること。

アプリが送信したデータは、必要に応じてさらなる成形・転送を行い、データは水産庁の指定するシステムに提出される。水産庁の指定するシステムへ提出するデータに係る仕様については水産庁と協議すること。ER アプリの概要を図1に示す。

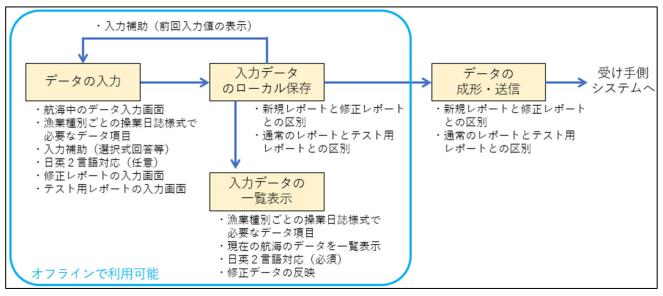


図 1. ER アプリ概要

#### 1. 入力データの分類

ER アプリでは、操業日誌様式で求められる入力項目を航海中にユーザがアプリ上で入力できるように機能を設計する。本要件定義書では、航海中に入力値が確定するタイミングによって入力項目を「レポート」と呼ぶ単位に分類する。ER アプリでは「レポート」ごとにデータの入力や保存、送信をコントロールする。例えば、操業日誌様式で求められる情報を下表に示す 6 種のレポートに分割してアプリを設計することが可能である。近海はえ縄操業日誌様式のレポートへの分割イメージを図 2 に示す。ユーザは各レポートを航海中に順次入力していく(図 3)。

レポート名	概要
出港レポート	出港に関わる情報(出港年月日や港)及び航海を開始するにあたり船の特定
	に必要な情報(許可番号)。
船情報レポート	船に関する情報等、1航海につき1セットのみ入力が必要な情報で、航海開
	始時点でほぼ確定している情報。船名、乗組員数等。
漁具情報レポート	漁具に関する情報等、1航海につき1セットのみ入力が必要な情報で、航海
	中の操業内容によって変化する可能性のある情報。
	漁業種類や漁具の仕立て等。竿釣りについては餌場出港の情報も含む。
操業日誌(操業あり/なし)レポート	航海中毎日入力する操業日誌明細行の情報。位置や、操業があった場合には
	漁獲量等。
入港レポート	入港に関わる情報。入港年月日や港。
陸揚レポート	陸揚や転載に関わる情報。陸揚重量合計等。



図 2. 操業日誌様式の ER アプリでのレポートへの分割イメージ

例として近海はえ縄操業日誌様式を使用し、出港、船情報、漁具情報、操業日誌(操業あり)、 操業日誌(操業なし)、入港、陸揚の7つのレポートに分割している。

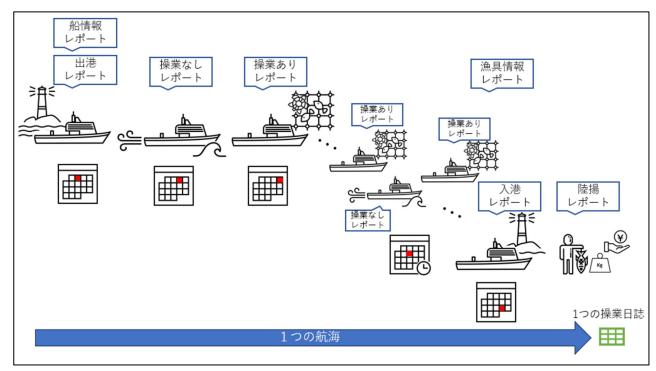


図 3. 航海中のレポート入力イメージのイメージ

# 2. 機能一覧

ER アプリの機能一覧及び機能の相関関係 (図 4) を示す。図 4の「受け手側システム」としては、直接水産庁のシステムが「受け手側システム」になる場合と、ER サービスプロバイダ等がサーバを設けて受信してから、当該サーバー経由で水産庁の指定するシステムにデータを送信する場合が考えられる。いずれの場合も水産庁の指定するシステムにデータを受け渡す際の仕様について水産庁と別途調整すること。

機能一覧の処理方式の「ローカル」はアプリを使用するタブレット・スマホがインターネットへの接続や衛星通信できない環境であっても、アプリ上での操作による入力、端末ストレージへの保存、および端末ストレージに保存されたデータのアプリ上での表示で処理を完結することを意味する。補足欄に任意と記載のある項目を除きすべて必須機能である。

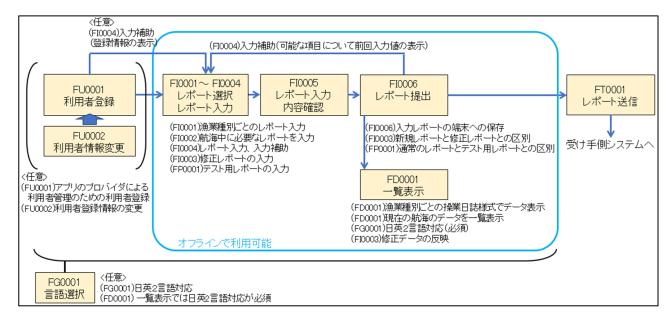


図 4. ER アプリの機能の相関

No.	機能 ID	機能分類	機能名	機能概要			処理	補足
				入力	処理	出力	方式	
1	FU0001	利用者管	利用者登	・画面入力	• 各入力項目	・入力情報を	ローカルお	〈任意〉アプ
		理	録	・可能な範囲	の入力規則に	必要な範囲で	よび必要に	リのプロバ
				で入力を補助	照らして入力	画面に表示す	応じてオン	イダによる
				する。	値の妥当性を	る。	ライン	利用者管理
					判断し、問題	・必要な場合		等に利用者
					がある場合は	には入力情報		登録が必要
					警告の表示ま	をアプリのバ		な場合には
					たは次の画面	ックエンドに		本機能を設
					への遷移の禁	送信する。		ける。
					止を行う。			
					・入力情報を			
					端末に保存す			
					る。			
2	FU0002	利用者管	利用者情	・画面入力	・各入力項目	・入力情報を	ローカルお	〈任意〉アプ
		理	報変更	・可能な範囲	の入力規則に	必要な範囲で	よび必要に	リのプロバ
				で入力を補助	照らして入力	画面に表示す	応じてオン	イダによる
				する。	値の妥当性を	る。	ライン	利用者管理
					判断し、問題	・必要な場合		等に利用者
					がある場合は	には入力情報		登録が必要
					警告の表示ま	をアプリのバ		な場合には
					たは次の画面	ックエンドに		本機能を設
					への遷移の禁	送信する。		ける。
					止を行う。			

No.	機能 ID	機能分類	機能名	機能概要			処理	補足
				入力	処理	出力	方式	
					・入力情報を			
					端末に保存す			
					る。			
3	FG0001	個人設定	言語選択	・OS の言語選	・OS の言語選	アプリ画面上	ローカル	〈任意〉
				択	択およびアプ	での表示言語		• 選択可能
				・アプリ画面	リ画面上での	に選択を反映		な言語には
				上で選択	ユーザの選択			日本語およ
					に基づいて表			び英語を含
					示言語を変化			めること。
					させる			表示言語の
								切り替えが
								困難な場合
								は、日英併
								記や対応表
								の表示等の
								対応を行う
								こと。
4	FI0001	レポート	漁業種別	画面入力(選	・入力した漁	入力した漁業	ローカル	アプリの対
		作成	選択	択式)または	業種別に対応	種別に対応す		象とする漁
				登録情報	する入力項目	るレポートを		業種別をユ
					をユーザが入	ユーザが選択		ーザが判別
					力するよう表	できるよう表		できる形で
					示を制御す	示する		表示する。
					る。			
					・利用者登録			
					情報を入力情			
					報として使用			
					してもよい。			
					・レポート内			
					でのユーザの			
					選択により漁			
					業種別に対応			
					した入力項目			
5	FI0002	レポート	レポート	画面入力(選	・これまでの	選択したレポ	ローカル	レポートの
		作成	選択	択式)	ユーザのレポ			区分は第5
					ート作成履歴	面に遷移す		章参照
					から、入力可	る。		
					能なレポート			
					に選択を制限			
					する。			
					・レポート入			
					・レボート入			

No.	機能 ID	機能分類	機能名	機能概要			処理	補足
				入力	処理	出力	方式	
					力データの端			
					末への記録を			
					開始する。			
6	FI0003	レポート	修正レポ	画面入力(「レ	・これまでの	選択した修正	ローカル	できる限り
		作成	ート選	ポート提出」	ユーザのレポ	レポートの入		修正する項
			択	済みのレポー	ート提出履歴	力画面に遷移		目のみの入
				トの内容を修	から、入力可	する。		力で済むこ
				正したい場	能なレポート	-		とが望まし
				合、ユーザは	に選択を制限			V <sub>0</sub>
				それを修正し	することが望			画面例は第
				たいレポート	ましい。			3章参照。
				を選択する。)	・修正データ			
					として、入力			
					データの端末			
					への記録を開			
					始する。			
7	FI0004	レポート	レポート	画面入力	• 前回入力值	・レポート入	ローカル	・入力項目
		作成	入力		や利用者登録	力データを、		は第5章参
		11,7,2			情報から利用	確定前の一時		照
					可能なデータ	保存状態とし		・この段階
					がある場合に	て端末に記録		では入力デ
					は入力項目回	する。		ータはキャ
					答欄にデフォ			ッシュや下
					ルト値として			書き等、
					表示する。			FI0006 のレ
					• 各入力項目			ポート提出
					の入力規則に			後とは区別
					照らして入力			した形で保
					値の妥当性を			存する。
					判断し、問題			,, , , ,
					がある場合は			
					警告の表示ま			
					たは次の画面			
					への遷移の禁			
					止を行う。			
8	FI0005	レポート	レポート	<ul><li>・ 画 面 入 力</li></ul>	・入力したレ	・入力内容の	ローカル	入力内容に
		作成	入力内容	(修正したい	ポートの回答	修正がある場		問題がなか
			確認	項目があれば	を表示し、ユ	合は修正画面		った場合、
			1- been field (2).	修正項目を選	ーザが内容を	へ遷移		「提出」ボ

No.	機能 ID	機能分類	機能名	機能概要		処理	補足	
				入力	処理	出力	方式	
				入力 択) ・ (確認 かって ) ・ (本なかって ) を (本)	確認する。 ・ユーザが修 正したい項目 がある場合に	・入力内容に問題がなかった場合、レポ	方式	タン 等をユップして で り り り り り り り り り り り り り り り り り り
9	F10006	レポート	レポート	FI0005 で画面	回答を選択し、レポート提出機能に進む。	・入力データ	ローカル	本機能はレ
		作成	提出	入力(確認し て問題なかっ た場合、その 旨回答)	して端末に保 存する。 ・レポートの	<ul><li>ータベースの レコードやファイル等。</li><li>・送信待機列 に追加する送</li></ul>		ポ末し機すあの (機) (大) (大) (大) (大) (大) (大) (大) (大) (大) (大
10	FT0001	レポート送信	レポート 送信	FI0006 の提出 レポートの送 信用データフ ァイル	必 イト と を で スタ に で ネスタ に で み に で み に で み に で で で で で で で で で で	送信用データ ファスタン 等を付加した データを に送信	定かり、大衛能し、ではいる。とは、では、では、では、では、では、では、では、では、のでは、のでは、のは、のは、のは、のは、のは、のは、のは、のは、のは、のは、のは、のは、のは	送信データ の形式は第 5章参照。

No.	機能 ID	機能分類	機能名	機能概要			処理	補足
				入力	処理	出力	方式	
							衛星通信機	
							能のあるア	
							プリの場	
							合、衛星通	
							信によるレ	
							ポート送信	
							を希望する	
							かどうかは	
							ユーザが選	
							択できるよ	
							うにするこ	
							と。	
11	FD0001	一覧表示	一覧表示	画面入力(表		一航海分の入	ローカル	・一覧の形
				示の指示を選		力データを一		式の参考例
				択)		覧で表示する		は第 4 章の
								帳票を参
								照。
								・洋上臨検
								等の際に外
								国人検査員
								が見てもわ
								かるよう、
								日英2か国
								語対応とす
								ること。
								・少なくと
								も現在の航
								海のデータ
								を一覧表示
								できるよう
								にするこ
								と。
								・過去の航
								海の入力デ
								ータも航海
								毎に表示で
								きると望ま
								しい。
								・FR0001 の
								修正データ
								も表示する

No.	機能 ID	機能分類	機能名	機能概要			処理	補足
				入力	処理	出力	方式	
								データに反
								映するこ
								と。
12	FP0001	テスト機	テスト機	画面入力(ユ	テスト用の航	レポート送信	ローカルお	本機能は
		能	能	ーザがテスト	海として、通	を行う場合	よび必要に	FIXXXX レポ
				用の使用を行	常のレポート	は、テスト用	応じてオン	ート作成機
				うことを選	とは区別でき	のレポートで	ライン	能、 FTXXXX
				択)	る形でレポー	あることを判		レポート送
					トの作成、送	別できる形で		信機能、お
					信、一覧表示	出力ファイル		よび FDXXXX
					を行う。	を作成・送信		一覧表示機
					テスト時に入	する。		能の中で実
					力したデータ			現されるも
					は通常のレポ			のである。
					ート作成時に			画面例は第3
					も前回入力値			章参照。
					として入力補			
					助に使用する			
					ことができ			
					る。			

# 3. 各種レポート

アプリの中核機能である、レポート作成 (機能 ID: FIXXXX) は、例えば下記のとおり 6 種のレポート に分割して実装されるなど操業日誌で求められる情報を複数に分割して実装される。各レポートに含まれる情報および入力のタイミングの制御について以下に記載する。入力タイミングの制御の結果、レポートを順次提出していく中で、作成可能なレポートがどのように遷移するかを図 5 に示す。

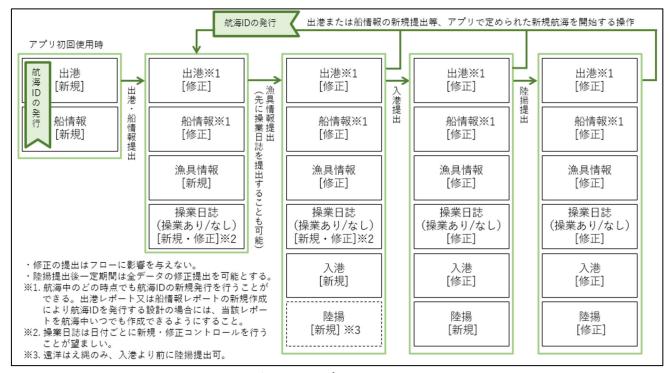


図 5. 選択できるレポートのフロー

#### 1. 出港レポート 及び 2. 船情報レポート:

出港レポートは出港に関わる情報および航海を開始するにあたり船の特定に必要な情報である。船情報レポートは船に関する情報等、1航海につき1セットのみ入力が必要な情報で、航海開始時点でほぼ確定している情報である。3番以降のレポート提出前に両レポートの作成を求めることが望ましい。なお、アプリの設計により、「1. 出港レポート」と「2. 船情報レポート」のいずれを先に提出しても問題なく、一つのレポートに統合してもよい。

航海の中で最初のレポートを提出する前、あるいは提出する際に、新しい航海 ID を発行する。以降、次の航海 ID を発行するまでの間に提出するすべてのレポートにはこの共通の航海 ID を付す。また、新しい航海 ID で最初のレポートを提出するまでに、必ず本航海における許可番号の入力を求めること。タブレットに保存された許可番号を表示し、確認・更新を求める形でもよい。許可番号はすべてのレポートの送信時に、ユーザが入力したデータに付加され、船の識別に用いられる。

航海 ID の発行に関わるレポートの修正を行う場合には、航海 ID を変更しないように設計すること。また、航海中に許可番号を修正することはできず、許可番号を修正する必要がある場合には必ず新規航海を開始し、提出済みのレポートも正しい許可番号と紐づいた状態で再度提出すること。

「3. 漁具情報レポート」、「5. 入港レポート」、及び「6. 陸揚レポート」を提出する前に、新しい航海 ID の発行の引き金となる操作をユーザが行った際には、警告を表示したうえで、いつでも新し航海を始められるようにすること。これは、ユーザが航海終了前に「3. 漁具情報レポート」、「5. 入港レポート」や「6. 陸揚レポート」の提出を忘れた場合にも、次回出港時に新規航海から入力を再開できるようにするためである。

#### 3. 漁具情報レポート:

漁具に関する情報等、1航海につき1セットのみ入力が必要な情報で、航海中の操業内容によって 変化する可能性のある情報。

出港後、入港までに必ず1回提出が必要だが、タイミングは問わない。操業の内容によって漁具情報が変更となる場合があるため、一つの独立したレポートとしているが、アプリの利用対象船でほぼ変更がないと考えられる場合には、「2. 船情報」と統合することも可能である。ただし、変更があった場合のために航海中いつでも修正レポートを提出できるようにすること。なお、近海はえ縄については一度も操業がないまま入港になった場合にだけ入力不要の項目がある。

# 4. 操業日誌(操業あり/なし)レポート:

航海中毎日入力する操業日誌明細行(漁獲等)の情報。

航海中、毎日1回、「操業あり」または「操業なし」いずれかの提出が必要。

「操業あり」と「操業なし」では以下のような違いがある。両者を独立なレポートとして扱う方法と、両者をひとつのレポートとしながら(2)の回答によって入力項目を動的に変化させる方法が考えられる。

- (1) 操業ありと操業なし共通で入力する項目:日付、位置、表面温度
- (2) 操業なしの場合のみ選択が必要な項目: 航行・操業・漂泊の別(操業ありの場合も「操業」 選択させてもよい)
  - (3) 操業ありの場合のみ入力する項目:魚種別漁獲量、混獲生物等の情報

# 5. 入港レポート:

入港に関わる情報。

「3. 漁具情報レポート」を提出しない限り入港レポートを作成することができないようにすること。

#### 6. 陸揚レポート:

陸揚に関わる情報。

近海はえ縄及び竿釣りの場合には、「5. 入港レポート」を提出しない限り陸揚レポートを作成することができないようにすること。

遠洋はえ縄で洋上転載を行う際には、「陸揚等年月日」、「洋上転載の位置」、「運搬船名」、「運搬船の船籍」、「運搬船の RFMO 番号」、「陸揚等尾数合計」及び「陸揚等重量合計」を記入する必要がある。洋上転載後に航海を続け、その後入港した際に陸揚があれば、陸揚を行った日付で「陸揚等年月日」を上書きする。「陸揚等尾数合計」及び「陸揚等重量合計」には洋上転載時と入港後の陸揚時を合わせた総量を記入する。このような運用を可能にするため、遠洋はえ縄の場合には、入港レポートの前に陸揚レポートを作成することも可能とすること。陸揚レポートとは別に洋上転載用のレポート

を設けて対応してもよい。水産庁側システムにデータを渡す際の形式について水産庁と協議すること。

#### ・アプリ初回使用時

特に、アプリの使用開始後最初のレポート作成時には、「1. 出港レポート」及び「2. 船情報」を提出してから「3. 漁具情報レポート」「4. 操業日誌(操業あり/なし)レポート」及び「5. 入港レポート」を提出可能とする。続いて、「5. 入港レポート」提出後に「6. 陸揚レポート」を提出可能とする。ただし、前述のとおり、遠洋はえ縄の場合には、入港レポートと陸揚レポートの順序は制限しない。

#### ・修正レポート

航海中、基本的にすべてのデータは修正レポートの提出により修正可能とする(機能 ID: FI0003)。ただし、「1. 出港レポート」を修正する際には、航海 ID を変更しないよう考慮してレポート修正機能を設計すること。修正レポートは、修正レポートであることを明示して、新規レポートと区別できる形で保存・送信を行うこと。なお、「6. 陸揚レポート」は入港から一定期間は修正レポートの提出が可能とすること。

#### 1. 画面一覧

# 全画面共通:

#### 画面入出力要件

表示方法: すべてタブレット上での表示。2か国語対応とすることが望ましい。

入力操作概要:各入力項目について、できる限り、入力規則に即したキーボードやウィジェット

の表示、選択式回答欄の使用を行うこと。

また、前回入力値や利用者登録情報で利用可能なデータがあれば入力項目回答欄

にデフォルト値として表示する等の入力補助を行うこと。

# 画面設計要件

タブレット上で表示可能であること。入出力項目が多い場合には適宜画面を分割すること 画面一覧の画面のうち、内容や操作性を鑑みて統合・分割が適切と判断したものについては必要な機能を維持しながら統合・分割することが可能。

#### 利用者区分

アプリ利用者

No.	画面 ID	画面分類	画面名	画面概要	画面入出力要件	該当機能	補足
1	GU1000	利用者登	登録情	利用者登録情報	入出力項目:	FU0001	〈任意〉船を特
		録画面	報入力	を入力・編集す	• 利用者情報	FU0002	定する情報は
			画面	る画面	・許可番号		許可番号(詳
					入力操作概要:		細は第5章参
					・初回登録後は現在の		照)。
					登録情報を表示する。		
					・可能な範囲で入力を		
					補助する。		
2	GG1000	ホーム画	ホーム	アプリ起動時に	入力操作概要:情報の		〈任意〉GI0001
		面	画面	表示される画	入力はなし		レポート選択
				面。本画面から			画面をホーム
				利用者登録画面			画面として用
				やレポート選択			いることも可
				画面に遷移す			能。
				る。			
3	GG2000	個人設定	言 語 選	アプリ画面上の	入力操作概要:	FG0001	〈任意〉ほかの
		画面	択画面	表示言語の選択	選択式		入力画面、表
				を行う画面	OS の言語選択を使用す		示画面内に含
					る方法も可能。		めることも可
							能。
4	GI0100	レポート	レポー	入力するレポー	入力操作概要:	FI0001	FI0001 レポ
		作成画面	ト選択	トの選択画面	選択式	FI0002	ートの作成

	1		I	T	1		
			画面		・これまでのユーザの		は GU0001 や
					レポート提出履歴か		GG0001, あ
					ら、入力可能なレポー		るいは各レ
					トに選択を制限する。		ポート入力
					入力可能なレポートの		画面中で入
					選択を促す表示や、入		力する方法
					力すべきでないレポー		も考えられ
					トの選択時はエラーメ		る。
					ッセージを表示する等		
					の工夫を行うこと。		
5	GI0200	レポート	レポー	「レポート提	入力操作概要:	FI0003	〈任意〉実際
		作成画面	ト 修 正	出」済みのレポ	選択式		の修正レポ
			選択画	ートの内容を修	・これまでのユーザの		ートの入力
			面	正したい場合	レポート提出履歴か		はレポート
				に、ユーザが修	ら、入力可能なレポー		作成画面
				正したいレポー	トに選択を制限するこ		(画面 ID:
				トを選択する画	とが望ましい。		GIX100) の
				面			中で行われ
				pada	出力:		る。
					ユーザが修正を選択し		レポート選択
					た場合には、修正用の		画面(画面
					入力画面に遷移する。		ID : GI0001) やホーム画面
					八万画面に座物する。		(画面 ID:
							GG0100)、レポ ート送信状況
							表示画面(画
							面 ID:
							GT1000)、レポ ート提出内容
							一覧表示画面
							(画面 ID:
							GD1000) 等か ら修正レポー
							トの入力画面
							に遷移する設
							計も可能。
	071100	1	111 2#4- >	1117# 1 - 22 1 - C	3 4 7 T D	FIACOS	
6	GI1100	レポート	出港レ	出港レポートの	入力項目:	FI0003	
		作成画面	ポート	入力項目を入力	出港に関わる情報およ	FI0004	
			入力画	する画面	び航海を開始するにあ		
			面		たり船の特定に必要な		
					情報。		
					例)		
					• 許可番号		
					・出港年月日		
					・出港港		
					詳細は第5章参照。		
					P1-11-1-21		

		作成画面	ポート 入力確 認画面	入力内容を表示 する画面。	出港レポート入力画面 の入力内容を表示 入力操作概要: ユーザが入力内容の変 更の有無をタップで入 力	FI0006	
8	GI2100	レポート作成画面	船け、八面面	船情報レポート の入力項目を入 力する画面	入力項目: 船に関する情報等、1 航海につき1セットの み入力が必要な情報 で、航海開始時点でほ ば確定している情報。 例) ・船名 ・漁船登録番号 ・船長名 詳細は第5章参照。	F10003 F10004	
9	GI2200	レポート作成画面	船レト確面	船情報レポート の入力内容を表示する画面。	出力項目: 船情報レポート入力画 面の入力内容を表示 入力操作概要: ユーザが入力内容の変 更の有無をタップで入 力	F10005 F10006	
10	GI3100	レポート作成画面	漁 果 レ ト 面面	漁具情報レポートの入力項目を 入力する画面	入力項目: 漁具に関する情報等、 1航海につき1セット のみ入力が必要な情報 で、航海中の操業内容 によって変化する可能 性のある情報。 例) ・漁具の仕立て(はえ 縄の場合) ・つり手人数(竿釣り の場合) ・操業区域(近海はえ 縄、竿釣りの場合) 詳細は第5章参照。	F10003 F10004	
11	GI3200	レポート 作成画面	漁り、一人のでは、一人のでは、一人のでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	漁具情報レポートの入力内容を表示する画面。	出力項目: 漁具情報レポート入力 画面の入力内容を表示 入力操作概要:	F10005 F10006	

			画面		ユーザが入力内容の変		
					更の有無をタップで入		
		-0			力		
12	GI4100	レポート	操業日	操業日誌(操業	入力項目:	FI0003	
		作成画面	誌(操業あ	あり)の入力項	航海中毎日入力する操	FI0004	
			果 めり レ	目を入力する画 面	業日誌明細行のうち、   操業した日に必要な項		
			ポート	Щ	探来した日に必要な項   目		
			入力画		例)		
			面		<ul><li>・操業開始位置</li></ul>		
					・操業開始時刻		
					・表面温度		
					・魚種別の漁獲量		
					・混獲生物等の情報		
					詳細は第5章参照。		
13	GI4200	レポート	操業日	操業日誌(操業	出力項目:	FI0005	
		作成画面	誌(操	あり) レポート	操業日誌(操業あり)	FI0006	
			業あ	の入力内容を表	レポート入力画面の入		
			り)レ	示する画面。	力内容を表示		
			ポート		入力操作概要:		
			入 力 確 認画面		ユーザが入力内容の変 更の有無をタップで入		
			四四四		力		
14	GI4300	レポート	操業日	操業日誌(操業	入力項目:	FI0003	
		作成画面	誌(操	なし)の入力項	   航海中毎日入力する操	FI0004	
			業な	目を入力する画	業日誌明細行のうち、		
			し) レ	面	操業しなかった日に必		
			ポート		要な項目		
			入力画		例)		
			面		・正午位置		
					・表面温度		
					・活動(航行、漂泊、		
					操業なしの理由、転載 等)		
					<sup>ず/</sup>   詳細は第5章参照。		
15	GI4400	レポート	操業日	操業日誌(操業	出力項目:	FI0005	
		作成画面	誌(操	なし) レポート	操業日誌(操業なし)	FI0006	
			業な	の入力内容を表	レポート入力画面の入		
			し) レ	示する画面。	力内容を表示		
			ポート		入力操作概要:		
			入力確		ユーザが入力内容の変		
			認画面		更の有無をタップで入		
					力		

16	GI5100	レポート作成画面	入港 レ ポート 入力 画 面	入港レポートの 入力項目を入力 する画面	入力項目: 入港に関わる情報 例) ・入港年月日 ・入港港 詳細は第5章参照。	F10003 F10004	
17	G15200	レポート 作成画面	入港レポート 入力確 認画面	入港レポートの 入力内容を表示 する画面。	出力項目: 入港レポート入力画面 の入力内容を表示 入力操作概要: ユーザが入力内容の変 更の有無をタップで入 力	F10005 F10006	
18	GI6100	レポート 作成画面	陸揚レポート スカ画 面	陸揚レポートの 入力項目を入力 する画面	入力項目: 陸揚に関わる情報 例) ・漁獲量 詳細は第5章参照。	F10003 F10004	
19	G16200	レポート 作成画面	陸 揚 レ ポ ー ト 入 力 確 認画面	陸揚レポートの 入力内容を表示 する画面。	出力項目: 陸揚レポート入力画面 の入力内容を表示 入力操作概要: ユーザが入力内容の変 更の有無をタップで入 力	FI0005 FI0006	
20	GT1000	レポート 送信状況 表示画面	レポ 信 ト 送 信 状 況 表 示画面	レポートの送信 状況 (ローカル 保存またはイン ターネットや衛 星通信で送信済 み) を表示する 画面	入力操作概要:情報の 入力はなし	FT0002	
21	GD1000	レポート 提出内容 一覧 画面	ルト内 覧画 画	現在の航海について、提出済みのレポートの入力内容を一覧表示する画面	入力項目: 一覧の表示を画面入力で選択 出力項目: ・少なくとも現在の航海のデータを一覧表示できるようにすること。 ・過去の航海の入力デ	FD0001	

					ータも航海毎に表示で		
					きると望ましい。この		
					場合、表示する航海が		
					わかるような表示項目		
					を設けること。		
					表示方法:		
					<ul><li>一覧の形式の参考例</li></ul>		
					は第 4 章の帳票を参		
					照。		
					・洋上臨検等の際に外		
					国人検査員が見てもわ		
					かるよう、日英2か国		
					語対応とすること。		
22	GP1000	テスト画	テスト	ユーザがテスト用	入力操作概要:	FP0001	実際にテスト
		面	機能選	の使用を行うこと	選択式		レポートを入
			択画面	を選択する画面			力する場合は
					出力:		レポート作成
					ユーザがテスト機能を		画面(画面
					選択した場合には、テ		ID : GIX100)
					スト用の入力画面に遷		の中で行われ
					移する。		る。
							レポート選択
							画面(画面
							ID : GI0001)
							やホーム画面
							(画面 ID:
							GG0100) 等か
							らテスト機能
							に遷移する設
							計も可能。
				I			

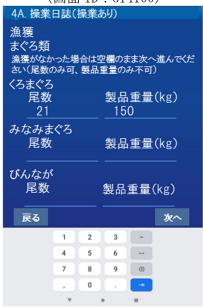
# 2. 画面イメージ

代表的な画面の例を以下に提示する。

レポート選択画面例 (画面 ID: GI0001)



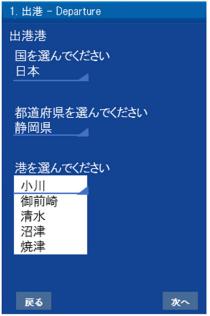
入力画面例 1:数值入力 (画面 ID:GI4100)



入力画面例 2:日付選択 (画面 ID:GI1100)



入力画面例 3: リスト選択 (画面 ID: GI1100)



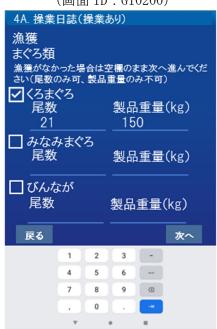
入力確認画面例 (画面 ID: GI1200)



レポート修正選択画面例 (画面 ID: GI0200)



修正レポートの入力画面例 (画面 ID: GI0200)



修正レポートの入力画面では、修 正項目にチェックを入れて正しい 値を入力する。修正データの保存 時や送信時には可能な限り修正の ある項目のみを報告するか、修正 項目を明示するフラグを出力形式 に設ける。

テスト機能選択画面例 (画面 ID: GP1000)



テストレポート入力 開始時の画面 (画面 ID: GI1100)



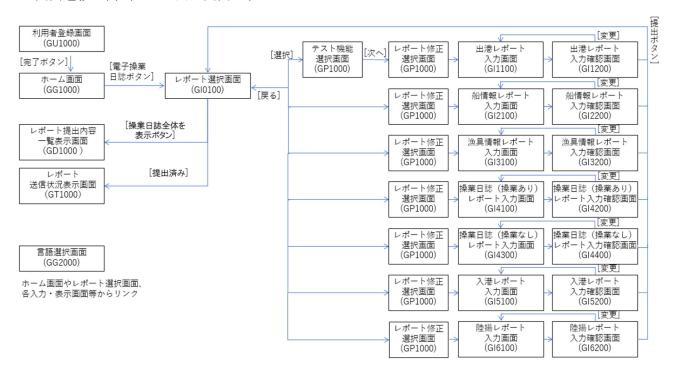
この例では、テストモード選択時には、航海 IDに「Test」と付加し、これをデータ保存時および送信時に使用することでテストモード中の航海データを実際の航海データから区別できるようにする。

#### 3. 画面遷移の基本的考え方

画面遷移の基本的考え方

- ▶ アプリ全体の画面遷移、画面表示及び画面構成に統一性を持たせること。
- ▶ スワイプ操作またはボタンのタップにより前後の画面への遷移を可能とすること。
- ▶ レポート選択画面(画面 ID: XXX) において選択可能なレポートは必要に応じて調整すること。
- ▶ エラーメッセージや警告メッセージの表示には必要に応じてポップアップ画面を使用すること。

画面遷移の例(かっこ内は画面 ID)



# 4. 画面設計ポリシー

レポート選択画面(GI0100)では、ユーザが次に作成するレポートを選択しやすいことが望ましい。それまでのユーザのレポート提出履歴から、入力可能なレポートの選択を促す表示や、入力すべきでないレポートの選択時はエラーメッセージを表示する等の工夫を行うこと。第3章画面遷移図に示した例のようにレポート修正選択画面をレポート入力と一体化させる場合には、航海中一度だけ提出する「1. 出港レポート」「2. 船情報レポート」等についても入力後も選択可能な状態にしておく必要があるので留意すること。

# 第4章 帳票に関する事項

アプリから簡単な操作により一航海分のデータを一覧表示する(機能 ID: FD0001)。その際の形式は下記の前提事項や帳票一覧に挙げる帳票概要を基本とする。すべての帳票は出力用で、PDFや HTML表示等、機器の画面上に表示できる出力形式を選択すること。

# 1. 帳票一覧

# 帳票一覧の全帳票についての前提事項

帳票	入出	帳票入出力要	帳票設計	入出力形式	該当機能	利用者区分
概要	力の	件	要件			
	区分					
現在の航海の	出力	出力方法:ア	操業日誌に係るデ	PDF や HTML 表	機能 ID:	ER データ報
入力データの		プリで入力	ータの表示にあた	示等、機器の	FD0001	告者のほか、
一覧表示。		し、端末に保	る	画面上に表示		臨検の検査官
		存したデータ		できる出力形		も利用する可
		を、タブレッ		式を選択する		能性がある。
		ト上に電子的		こと。		
		に表示する。				

# 帳票一覧

No.	帳票 I D	帳票名	帳票概要
1	CH1001	遠洋はえ縄(大西洋入域船)表紙	主に船の情報を出力
2	CH1002	遠洋はえ縄(大西洋入域船)漁獲量	日々の漁獲量の情報を出力
3	CH1003	遠洋はえ縄(大西洋入域船)混獲生物等の情報	日々の混獲生物等の情報を出力
4	CH1101	遠洋はえ縄(大西洋入域船以外)表紙	主に船の情報を出力
5	CH1102	遠洋はえ縄(大西洋入域船以外)漁獲量	日々の漁獲量の情報を出力
6	CH1103	遠洋はえ縄(大西洋入域船以外)混獲生物等の情報	日々の混獲生物等の情報を出力
7	CH2001	近海はえ縄 操業日誌	日々の漁獲量の情報を出力
8	CH2002	近海はえ縄 混獲生物等の情報	日々の混獲生物等の情報を出力
9	CH3001	竿釣り 操業日誌	日々の漁獲量の情報を出力
10	CH3002	竿釣り 混獲生物等の情報	日々の混獲生物等の情報を出力

# 2. 帳票イメージ

# 付録1参照。

# 3. 帳票設計ポリシー

アプリ上の帳票の表示は日英2か国語対応とすることが望ましい。ユーザが表示言語を選択できるように することが難しい場合には、日英併記や対応表の表示等の工夫を行うこと。

# 1. データモデル



# 2. データー覧

すべてのデータはアプリ上でユーザが入力するデータであり、アプリを使用する機器のストレージに 保存される。

データ			
ID	データ名	概要・用途	備考
EN-001	漁船	アプリ利用者の報告する漁船を管理する。	
EN-002	航海	すべての航海(出港から陸揚まで)を管理する。	1 航海が操業日誌エクセルの1ファイルに 相当する。
EN-003	レポート	利用者が提出したすべてのレポートを管理する。	

# 3. データ定義

	データ ID	EN-001	データ名	漁船		
	用途	アプリ利用者の報告する漁船を	ご管理する。			
5	データの単位	1隻につき1件の「漁船」とす	·る。			
No.	データ項目名	データタイプ	データ概要	キー	備考	
1	許可番号	半角数字 4 桁	漁船を特定する番号	PK	許可番号の変更があった場合、利用者がアプリ上で最新の値に変更する。水産庁側システムでは許可番号により漁船を特定するので、利用者による入力ミスを防ぐために、事前にアプリ上に保存しておき、それと異なる許可番号を入力した場合に警告を表示することが望ましい。	
2						

データ ID		EN-002	データ名	航海				
	用途	すべての航海(出港から陸揚まで)を管理する。						
<u>.</u>	データの単位				アプリの設計により、出港レポート 始をなんらかの形で入力した際に新			
No.	データ項目名	データタイプ	データ概要	キー	備考			
1	航海 ID	yyyymmdd### yyyymmdd:出港レポートの提出年月日 ###:年間の航海カウント数 例:航海 ID 20230612004の 航海は2023年6月12日に出港レポートを提出した航海で、2023年の4航海目。	航海を特定する ID	PK	アプリの設計により、出港レポート作成時、船情報レポート作成時、船情報レポート作成時、あるいはユーザが航海の開始をなんらかの形で入力した際に新規航海 ID を発行する。出港レポートや船情報レポートの修正の際には新規航海 ID を発行しない。テストのためにレポートを送信する際は、航海 ID の末尾に文字列「Test」を付加し、受け手側システムでテストであることがわかるようにすること(例:202306120004Test)。			
2	許可番号	半角数字4桁	漁船を特定する番 号	PK, FK				
3	出港年月日	yyyymmdd	出港日					
4	アプリ特有の航	アプリ特有の航海に関わる情報がある場合には航海 ID と紐づけて管理する。						

データ ID		EN-003	データ名	レポー	<b>F</b>		
用途		利用者が提出したすべてのレポートを管理する。					
<u>ت</u> ر	データの単位	利用者がレポートを提出する	ごとに1つの「レポート	」を作品	<b>戈する。</b>		
No.	データ項目名	データタイプ	データ概要	キー	備考		
1	許可番号	半角数字 4 桁	漁船を特定する番号	PK, FK	レポート種別コード表参照		
2	航海 ID	yyyymmdd### yyyymmdd:出港レポートの 提出年月日 ###:年間の航海カウント 数 例:航海 ID 20230612004 の航海は 2023 年 6 月 12 日 に出港レポートを提出した 航海で、2023 年の 4 航海 目。	航海を特定する ID	PK, FK			
3	レポート種別	半角英字3桁	レポートの種別	PK	レポート種別コード表参照		
4	タイムスタン プ	YYYY-MM-dd_HH-mm-ss	タイムスタンプ (UTC)	PK			

5	レポート入力 内容	レポートの入力内容はデータベースに保存せずに、 xml 等のファイルとして保存することも可能。	レポート入力内容		修正レポートの場合は修正であることを明示 入力項目は項目一覧を参照
---	--------------	--	----------	--	--------------------------------------

項目一覧 付録2参照。

# 4. コード一覧

No.	コード名	用途	現時点で 水産庁側 システム が認識可 能	備考
1	レポート種別コード	アプリがデータを送信する際にレコードの種別を特定するために使用するコードの例	水産庁と 協議	水産庁側システムにレポート 毎にデータを送信する場合 は、水産庁と協議の上、レポート種別コードを使用してア ポートを送信すること。ERア プリのシステム側で航海毎に データをとりまとめてから水 産庁側システムにデータをと す場合にもその形式について 別途水産庁と協議すること。
2	港コード	出港レポートおよび入港レポートで使用する 港コードの例	×	
3-1	漁獲魚種コード	操業日誌レポートの漁獲および陸揚げレポー トで使用する漁獲魚種コードの例	×	
3-2	遠洋はえ縄の漁獲の 「その他さめ類」コ ード	遠洋はえ縄の漁獲の「その他さめ類」のコード。操業日誌レポートの漁獲および陸揚げレポートで使用する。	0	3-1 の漁獲魚種コードのうち、 水産庁側システムの設定する 魚種コードで受け渡しする必 要があるもの。
4	混獲生物等の種コード	操業日誌レポートの混獲生物等の入力で使用 する種コードの例	〇 (一部)	混獲生物等の種コードについて、参考用の種コードと水産庁側システムの設定する魚種コードで受け渡しする必要があるコード(番号)を内容定義に記載する。

# 5. コード内容定義

#### レポート種別コード

操業日誌で求められる情報を下記の 6 種 7 つのレポートに分割して取り扱う。アプリの設計によっては レポートの統合・分割を行うことも考えられる。水産庁側システムへのデータ受け渡し時の形式につい ては水産庁と協議すること。

コード No.	1	コード名	レポート種別コード
コード		レポート種別名	英語レポート種別名
DEP	出港	レポート	DEPARTURE
VES	船情	報レポート	VESSEL INFO
GER	漁具	情報レポート	GEAR DECLARATION
FAR	操業	日誌(操業あり)レポート	FISHING ACTIVITY
NOF	操業	日誌(操業なし)レポート	NO FISHING ACTIVITY
RTP	入港レポート		RETURN TO PORT
LAN	陸揚	レポート	LANDING REPORT

#### 港コード

港名の入力はプルダウンリスト式で行い、リストにないものはユーザが文字列入力するものとする。 リストの選択肢の港をアプリが送信する際には、データ量の抑制のためコードを使用することが考えられる。その際の参考として下表に近海はえ縄用の日本の港の一覧を添付する。なお、必ずしも下表のコードを使用する必要はない。また、漁績システムへの受け渡し時の形式については水産庁と協議すること。

#### 参考:

WCPFC 港リスト https://data.wcpfc.int/reference-list/port

国連港リスト United Nations Code for Trade and Transport Locations (UN/LOCODE)

https://service.unece.org/trade/locode/jp.htm

コード No.	2	コード名	港コ-	ード
港コード	都道府県	Prefecture	港	Port
JP0F0	岩手県	Iwate	大船渡	Ofunato
JP023	宮城県	Miyagi	石巻	Ishinomaki
JP035	宮城県	Miyagi	気仙沼	Kesennuma
JP088	宮城県	Miyagi	塩釜	Shiogama
JPONA	福島県	Fukushima	小名浜	Onahama
JPNKX	福島県	Fusushima	中之作	Nakanosaku
JPNMT	茨城県	Ibaraki	那珂湊	Nakaminato
JP006	千葉県	Chiba	銚子	Choshi
JPKUR	千葉県	Chiba	千葉勝浦	Chiba-Katsuura

JPMIK	神奈川県	Kanagawa	三崎	Misaki
JP067	静岡県	Shizuoka	沼津	Numazu
JP071	静岡県	Shizuoka	御前崎	Omaezaki
JP085	静岡県	Shizuoka	清水	Shimizu
JP116	静岡県	Shizuoka	焼津	Yaizu
JP149	静岡県	Shizuoka	小川	Ogawa
JP129	三重県	Mie	紀伊長島	Kii-Nagashima
JP075	三重県	Mie	尾鷲	Owase
JP150	三重県	Mie	和具	Wagu
JP132	和歌山県	Wakayama	那智勝浦	Nachi-Katsuura
JPFKR	愛媛県	Kochi	深浦	Fukaura
JP055	高知県	Kochi	室戸	Muroto
JP077	高知県	Kochi	佐賀	Saga
JP103	高知県	Kochi	土佐清水	Tosa-Shimizu
JPMRJ	高知県	Kochi	室戸岬	Muroto-Misaki
JPKRA	高知県	Kochi	甲浦	Kannnoura
JPKCZ	高知県	Ehime	高知(弘化台)	Kochi-Kokadai
JP056	長崎県	Nagasaki	長崎	Nagasaki
JP018	宮崎県	Miyazaki	日向	Hyuga
JP034	宮崎県	Miyazaki	川南	Kawaminami
JP053	宮崎県	Miyazaki	宮崎	Miyazaki
JP061	宮崎県	Miyazaki	南郷	Nanngo
JPABU	宮崎県	Miyazaki	油津	Aburatsu
JP029	鹿児島	Kagoshima	鹿児島	Kagoshima
JP046	鹿児島県	Kagoshima	枕崎	Makurazaki
JPYAM	鹿児島県	Kagoshima	山川	Yamagawa
JP025	沖縄県	Okinawa	糸満	Itoman
JP101	沖縄県	Okinawa	泊	Tomari

漁獲魚種コードおよび混獲生物等の種コード

漁獲情報および混獲生物等の情報の入力データをアプリが送信する際には、データ量の抑制のためコードを使用することが考えられる。アプリからの送信時の形式については、その際の参考として下表にFAO コードの一覧を添付する。

ただし、漁績システムへの受け渡し時には操業日誌エクセルに記載の魚種・生物種順にデータを並べる こと。また、選択式の種名に関しては操業日誌エクセルに記載の番号を使用するなど、水産庁と協議の 上適切な形に変換するなどして受け渡すこと。

参考: FAO コード検索 https://www.fao.org/fishery/en/species/search

コー ド No.	3-1	コード名			漁獲魚種	コード			
漁種					遠洋は	吏用する漁業 遠洋はえ	種別		
コード	グループ	Group	魚種名	Species	え縄 (大西 洋入域 船)	縄 (大西洋 入域船以 外)	近海 はえ 縄	竿釣り	備考
BFT	まぐろ類	Tunas	くろまぐろ	BFT- Bluefin tuna	0	0	0	0	FAO コード
SBF	まぐろ類	Tunas	みなみまぐ ろ	SBF - Southern bluefin tuna	0	0	0	×	FAO コード
ALB	まぐろ類	Tunas	びんなが	ALB - Albacore	0	0	0	0	FAO コード
BET	まぐろ類	Tunas	めばち	BET - Bigeye tuna	0	0	0	0	FAO コード
YFT	まぐろ類	Tunas	きはだ	YFT - Yellowfin tuna	0	0	0	0	FAO コード
SWO	かじき類	Billfish	めかじき	SWO - Swordfish (total)	0	0	0	×	FAO コード
SWR	かじき類	Billfish	め か じ き (うちメカ リング)	SWO - Swordfish (by ring hooks)	0	0	0	×	本要件定義に て独自に設定 したコード。
MLS	かじき類	Billfish	まかじき	MLS/WHM - Striped marlin	0	0	0	×	FAO コード
BUM	かじき類	Billfish	くろかじき	BUM - Blue marlin	0	0	0	×	FAO コード
BLM	かじき類	Billfish	しろかじき	BLM - Black marlin	0	0	0	×	FAO コード
SFA	かじき類	Billfish	ばしょうか じき	SFA - Indo- Pacific sailfish	0	0	0	×	FAO コード
SSP	かじき類	Billfish	ふうらいか じき	SSP - Shortbill spearfish	0	0	0	×	FAO コード
SKJ	かつお類	Skipjack	かつお	SKJ - Skipjack	0	0	0	0	FAO コード
SKJ	かつお類	Skipjack	そうだがつ お	BLT/FRI - Bullet/Frigate Tuna	×	×	×	0	FAO コード
BSH	さめ類	Sharks	よしきりざ め	BSH - Blue shark	0	0	0	×	FAO コード

POR	さめ類	Sharks	ねずみざめ	POR/LMD - Porbeagle/Salmon shark	Δ	0	0	×	FAO コード 遠洋はえ縄 (大西洋入域 船)ではその 他さめ類の選 択肢
SMA	さめ類	Sharks	あおざめ	SMA/MAK - Shortfin mako/Mako sharks	0	0	0	×	FAO コード
<del>OCS</del>	さめ類	Sharks	よごれ(ひ らがしら)	OCS - Oceanic whitetip shark	-	-	-	_	FAO コード。 「近海はえ 縄」操業日誌 様式に含まれ ていたが、漁 獲魚種から削 除されたため 漁獲から削 除。
THR	さめ類	Sharks	おながざめ 類	THR - Thresher sharks nei	Δ	Δ	0	×	FAOコード 「遠洋はえ縄 (大西洋入域 船)」および 「遠洋はえ縄 (大西洋入域 船以外)」で はその選択肢に 含まれる。
SKH	さめ類	Sharks	その他さめ類	SKH - Various sharks nei	0	0	0	×	FAO類なは「(船「(船は「ののコり種るの近」他」魚不遠大)遠大以各遠漁他一具を一ははさ具の。は洋おは洋の外様洋獲さド体回、は洋おは洋)式はのめ」的答にはおは洋が、で、縄そ』よ魚は、大いので、一種でのの 種域び縄域で 縄そ』よ魚
BUK	その他	Others	がすとろ	BUK - Butterfly kingfish	0	0	0	×	FAO コード

ОТН	その他	Others	その他の魚 類	OTH - Other fish	0	0	0	×	本要件定義に を独自コ業でのいたはののいたはののいたはののののなはがののいたはでのののはは不りのでのはのでのでのでのでのででのでいる。でのでいる。でのではのできる。
OTH	その他	Others	その他	OTH - Others			0	×	
竿釣り~	でこしながの	漁獲があっ	た場合は「特証	🛚 事項」に文字列で記	1入				

竿釣りでこしながの漁獲があった場合は	「特記事項」に文字列で記入
--------------------	---------------

コード No.	3-2	コード名	遠洋	はえ縄の漁獲	蒦の「そ(	の他さん	り類」コード
			使	用する漁業種	重別		
魚種コード	魚種名	Species	遠洋はえ縄 (大西洋入 域船)	遠洋はえ 縄 (大西洋 入域船以 外)	近海 はえ 縄	<b>竿</b> 釣 り	備考
10	めじろざめ類 (CCP)	CCP - Sandbar shark	0	0	×	×	水産庁側システムで 定められたコード
<del>11</del>	よごれ (OCS)	OCS - Oceanic whitetip shark	$\ominus$	$\Theta$	<del>×</del>	<del>×</del>	<u>水産庁側システムで</u> <u>定められたコード</u>
12	くろとがりざめ (FAL)	FAL - Silky shark	0	0	×	×	水産庁側システムで 定められたコード
20	おながざめ類 (THR)	THR - Thresher sharks nei	0	0	×	×	水産庁側システムで 定められたコード
21	にたり (PTH)	PTH - Pelagic thresher	0	0	×	×	水産庁側システムで 定められたコード
22	はちわれ (BTH)	BTH - Bigeye thresher	0	0	×	×	水産庁側システムで 定められたコード
23	まおなが (ALV)	ALV - Thresher	0	0	×	×	水産庁側システムで 定められたコード
30	しゅもくざめ類 (SPN)	SPN - Hammerhead sharks nei	0	0	×	×	水産庁側システムで 定められたコード
31	いんどしゅもくざ め (EUB)	EUB - Winghead shark	0	0	×	×	水産庁側システムで 定められたコード
32	ひらしゅもくざめ (SPK)	SPK - Great hammerhead	0	0	×	×	水産庁側システムで 定められたコード
33	しろしゅもくざめ (SPZ)	SPZ - Smooth hammerhead	0	0	×	×	水産庁側システムで 定められたコード
40	ねずみざめ類 (MSK)	MSK	0	×	×	×	水産庁側システムで 定められたコード
41	ねずみざめ (POR/LMD)	POR/LMD - Porbeagle/Salmon shark	0	×	×	×	水産庁側システムで 定められたコード
80	その他のさめ類 (SKH)	SKH - Various sharks nei	0	0	×	×	水産庁側システムで 定められたコード

コード No.	4	コード名		混獲生物	勿等の利	重コート	S.		
種					使用する漁業種別 (水産庁側システムで定 められた番号がある場 合は 番号を記載する) 遠洋 遠洋				
コード	グループ	Group	魚種名	Species	は縄、西入船	は縄(西入船外)	近海は縄	竿釣り	備考
BFS	マグロ・カ ジキ類	Tuna and Billfish	クロマグロ ~RD30kg	BFT - Round Weight under 30kg	×	×	0	×	本要件定義に て独自に設定 したコード。
BFM	マグロ・カ ジキ類	Tuna and Billfish	クロマグロ RD30 ~70kg	BFT - Round Weight 30 - 70 kg	×	×	0	×	本要件定義に て独自に設定 したコード。
BFL	マグロ・カ ジキ類	Tuna and Billfish	クロマグロ RD70kg ~	BFT - Round Weight over 70 kg	×	×	0	×	本要件定義に て独自に設定 したコード。
BFT	マグロ・カ ジキ類	Tuna and Billfish	クロマグロ	BFT - Bluefin tuna	1	1	×	1	FAO コード 「近海はえ 縄」以外で 「マグロ・カ ジキ類」の選 択肢
SBF	マグロ・カ ジキ類	Tuna and Billfish	ミナミマグロ	SBF - Southern bluefin tuna	2	2	1	2	FAO コード 「マグロ・カ ジキ類」の選 択肢
ALB	マグロ・カ ジキ類	Tuna and Billfish	ビンナガ	ALB - Albacore	3	3	2	3	FAO コード 「マグロ・カ ジキ類」の選 択肢
BET	マグロ・カ ジキ類	Tuna and Billfish	メバチ	BET - Bigeye tuna	4	4	3	4	FAO コード 「マグロ・カ ジキ類」の選 択肢
YFT	マグロ・カ ジキ類	Tuna and Billfish	キハダ	YFT - Yellowfin tuna	5	5	4	5	FAO コード 「マグロ・カ ジキ類」の選 択肢
SWO	マグロ・カ ジキ類	Tuna and Billfish	メカジキ	SWO - Swordfish	6	6	5	6	FAO コード 「マグロ・カ ジキ類」の選 択肢
MLS	マグロ・カ ジキ類	Tuna and Billfish	マカジキ	MLS/WHM- Striped marlin	7	7	6	7	FAO コード 「マグロ・カ ジキ類」の選 択肢

BUM	マグロ・カ ジキ類	Tuna and Billfish	クロカジキ	BUM - Blue marlin	8	8	7	8	FAO コード 「マグロ・カ ジキ類」の選 択肢
BLM	マグロ・カ ジキ類	Tuna and Billfish	シロカジキ	BLM - Black marlin	9	9	8	9	FAO コード 「マグロ・カ ジキ類」の選 択肢
SFA	マグロ・カ ジキ類	Tuna and Billfish	バショウカ ジキ	SFA/SAJ - Indo- Pacific sailfish	10	10	9	10	FAO コード 「マグロ・カ ジキ類」の選 択肢
SSP	マグロ・カ ジキ類	Tuna and Billfish	フウライカ ジキ	SSP - Shortbill spearfish	11	11	10	11	FAO コード 「マグロ・カ ジキ類」の選 択肢
SKJ	マグロ・カ ジキ類	Tuna and Billfish	カツオ	SKJ - Skipjack	12	12	11	12	FAO コード 「マグロ・カ ジキ類」の選 択肢
UNF	マグロ・カ ジキ類	Tuna and Billfish	種不明	Unidentified	13	13	12	13	本要件定義に て独自に設定 したコード。 「マグロ・カ ジキ類」の選 択肢
BSH	サメ類	Sharks	ヨシキリザ メ	BSH - Blue shark	0	0	0	0	FAO コード
POR	サメ類	Sharks	ネズミザメ	POR/LMD - Porbeagle/Salmon shark	0	0	0	0	FAO コード
SMA	サメ類	Sharks	アオザメ	SMA/MAK - Shortfin mako/Mako sharks	0	0	0	0	FAO コード
ССР	サメ類	Sharks	メジロザメ 類	CCP - Sandbar shark	10	10	10	10	FAO コード 「その他のサ メ類」の選択 肢
0CS	サメ類	Sharks	ヨゴレ	OCS - Oceanic whitetip shark	11	11	11	11	FAO コード 「その他のサ メ類」の選択 肢
FAL	サメ類	Sharks	クロトガリ ザメ	FAL - Silky shark	12	12	12	12	FAO コード 「その他のサ メ類」の選択 肢
THR	サメ類	Sharks	オナガザメ 類	THR - Thresher sharks nei	20	20	20	20	FAO コード 「その他のサ メ類」の選択 肢
РТН	サメ類	Sharks	ニタリ	PTH - Pelagic thresher	21	21	21	21	FAO コード 「その他のサ メ類」の選択 肢

ВТН	サメ類	Sharks	ハチワレ	BTH - Bigeye thresher	22	22	22	22	FAO コード 「その他のサ メ類」の選択 肢
ALV	サメ類	Sharks	マオナガ	ALV - Thresher	23	23	23	23	FAO コード 「その他のサ メ類」の選択 肢
SPN	サメ類	Sharks	シュモクザ メ類	SPN - Hammerhead sharks nei	30	30	30	30	FAO コード 「その他のサ メ類」の選択 肢
EUB	サメ類	Sharks	インドシュ モクザメ	EUB - Winghead shark	31	31	31	31	FAO コード 「その他のサ メ類」の選択 肢
SPK	サメ類	Sharks	ヒラシュモ クザメ	SPK - Great hammerhead	32	32	32	32	FAO コード 「その他のサ メ類」の選択 肢
SPZ	サメ類	Sharks	シロシュモ クザメ	SPZ - Smooth hammerhead	33	33	33	33	FAO コード 「その他のサ メ類」の選択 肢
SKH	サメ類	Sharks	その他のサメ類	SKH - Various sharks nei	80	80	80	80	FAO コード 「その他のサ メ類」の選択 肢
UNS	サメ類	Sharks	種不明	Unidentified	90	90	90	90	本要件定義にて独自に設定したコード。「その他のサメ類」の選択肢
TTL	カメ類	Turtles	アカウミガ メ	TTL - Loggerhead turtle	0	0	0	0	FAO コード
TUG	カメ類	Turtles	アオウミガメ	TUG - Green sea turtle	0	0	1	0	FAO コード 「近海はえ 縄」では「そ の他のカメ 類」の選択肢
DKK	カメ類	Turtles	オサガメ	DKK - Leatherback turtle	0	0	0	0	FAO コード
ТТН	カメ類	Turtles	タイマイ	TTH - Hawksbill turtle	0	0	2	0	FAO コード 「近海はえ 縄」では「そ の他のカメ 類」の選択肢
LKV	カメ類	Turtles	ヒメウミガ メ	LKV - Olive ridley turtle	0	0	0	0	FAO コード
OTT	カメ類	Turtles	その他カメ類及び不明	Others and unidentified	0	0	3	0	本要件定義に て独自に設定 したコード。 「近海はえ

									縄」では「そ の他のカメ 類」の選択肢
ALZ	鳥類	Birds	アホウドリ 類	ALZ - Albatross	0	0	0	0	FAO コード
PQW	鳥類	Birds	ミズナギド リ類	PQW - Shearwater	0	0	0	0	FAO コード
MBX	鳥類	Birds	オオフルマ カモメ類	MBX - Sounthern giant petrel	0	0	1	0	FAO コード 「近海はえ 縄」では「そ の他の鳥類」 の選択肢
PVF	鳥類	Birds	ペンギン類 (南半球の み)	PVF - Penguin (only in the southern hemisphere)	0	0	2	0	FAO コード 「近海はえ 縄」では「そ の他の鳥類」 の選択肢
OTB	鳥類	Birds	その他鳥類及び不明	Others and unidentified	0	0	3	0	本要件定義に て独自に形定 したコード。 「近海はえ 縄」では「そ の他の鳥類」 の選択肢

# 第6章 外部インタフェースに関する事項

アプリで入力した漁獲等のデータは最終的には水産庁の指定するシステムに報告される必要がある。当該システムへのデータ受け渡し時の実装方式や送受信タイミング、データ形式等の仕様については水産庁と協議すること。

以上